

3:1 そこで、私たちはもはや耐えきれなくなり、私たちだけがアテネに残ることにして、
3:2 私たちの兄弟であり、キリストの福音を伝える神の同労者であるテモテを遣わしたのです。あなたがたを信仰において強め励まし、
3:3 このような苦難の中にあっても、だれも動揺することがないようにするためでした。あなたがた自身が知っているとおりに、私たちはこのような苦難にあうように定められているのです。

3:4 あなたがたのところにいたとき、私たちは前もって、苦難にあうようになっておいたのですが、あなたがたが知っているとおりに、それは事実となりました。

3:5 そういうわけで、私ももはや耐えられなくなって、あなたがたの信仰の様子を知るために、テモテを遣わしたのです。それは、誘惑する者があなたがたを誘惑して、私たちの労苦が無駄にならないようにするためでした。

3:6 ところが今、テモテがあなたがたのところから私たちのもとに帰って来て、あなたがたの信仰と愛について良い知らせを伝えてくれました。また、あなたがたが私たちのことを、いつも好意をもって思い起こし、私たちがあなたがたに会いたいと思っっているように、あなたがたも私たちに会いたがっていることを知らせてくれました。

3:7 こういうわけで、兄弟たち。私たちはあらゆる苦悩と苦難のうちにありながら、あなたがたのことでは慰めを受けました。あなたがたの信仰による慰めです。

3:8 あなたがたが主であって堅く立っているなら、今、私たちの心は生き返るからです。

3:9 あなたがたのことで、どれほどの感謝を神におさげできるでしょうか。神の御前であなたがたのことを喜んでいて、そのすべての喜びのゆえに。

3:10 私たちは、あなたがたの顔を見て、あなたがたの信仰で不足しているものを補うことができるようにと、夜昼、熱心に祈っています。

3:11 どうか、私たちの父である神ご自身と、私たちの主イエスが、私たちの道を開いて、あなたがたのところに行かせてくださいますように。

3:12 私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いに対する愛を、またすべての人に対する愛を、主が豊かにし、あふれさせてくださいますように。

3:13 そして、あなたがたの心を強めて、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒たちとともに来られるときに、私たちの父である神の御前で、聖であり、責められるところのない者としてくださいますように。
アーメン

パウロは明かにテサロニケ教会の人々を愛していました。そしてその信仰をしっかりと保つように励ましていたのです。しかしその信仰ゆえに、彼らが迫害に会い、「苦難の中に」あることも事実です。パウロはそれを知っていて、信仰に留まるように励ましたのです。

パウロは愛する者が苦勞をしないように考えなかったのでしょうか。迫害されると知りつつなぜ福音を伝えたのでしょうか。それはそこに永遠のいのちがあるからです。迫害を避けつつ、また苦勞を避けつつ永遠の滅びに至るよりも、苦難にありながらも永遠の救いにあずかる方が良いのは当たり前です。

また神の子となった者は当然、神のために生き

ることが喜びとなり、またそのような者は大切なときに神様から守られ、祝福され、支えられます。

本当の幸いは主のために生きることにあります。本当に恐れるべきなのは、体だけではなく魂も永遠に滅ぼすことのできるお方です。ですから本当の「生きがい」は、永遠のいのちの価値を知って、そのために人々が生きるために勧めることなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

